

## サイエンスネット

物化生地…

数研出版株式会社

SCIENCE NET

## 【特集】新学習指導要領と「大学入学共通テスト」へ向けて

- ▶ 高等学校新学習指導要領「総則」の要点…1
- ▶ 新制度理科の目標と指導計画…4
- ▶ 新制度と現行制度の内容対照表…8
- ▶ 教科「理数」の各科目における目標と内容…14
- ▶ 大学入学共通テスト導入に向けた試行調査  
(プレテスト)の要点(理科)…15

## 高等学校新学習指導要領「総則」の要点

数研出版 編集部

2018年3月30日、文部科学省より「高等学校学習指導要領」が告示されました。新学習指導要領は2022年度から学年進行で実施されます。p.1～2では、「改訂のポイント」ならびに「総則」の要点をまとめています。

## ●学習指導要領改訂のポイント

## ○「主体的・対話的で深い学び」の実現

・「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で学習内容を明確化し、実現へ向けた授業改善の必要性を示す。

## ○各学校でのカリキュラム・マネジメントの確立

・学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等)や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のために、教科等横断的な学習を充実する。

・「主体的・対話的で深い学び」の充実のために、習得・活用・探究のバランスを工夫する。

・以上の実現のために、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを確立する。

## ○教科・科目構成の見直し (→ p.3 表)

・高等学校において育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、教科・科目の構成を改善。

## ○教育内容の主な改善事項

- ・言語能力の確実な育成 ・理数教育の充実
- ・伝統や文化に関する教育の充実
- ・道徳教育の充実 ・外国語教育の充実
- ・職業教育の充実

## ●「第1章 総則」の要点

## ○第1款 高等学校教育の基本と教育課程の役割

・各学校で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、次に掲げる事項の実現を図り、生徒に生きる力を育むことを目指す。

- ①基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、

これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努める。

②道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養(かん)を目指した教育の充実に努める。

③体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努める。

・生きる力を育むことを目指すにあたり、「知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「学びに向かう力、人間性等の涵養が偏りなく実現できるようにする。

・教育の目的や目標の実現に必要な内容を教科等横断的な視点で組み立てるなど、教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」に努める。

## ○第2款 教育課程の編成

・言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点で育成する。

・教育課程編成の共通の事項(総合的な探究の時間)

①「総合的な学習の時間」は「総合的な探究の時間」に変更。すべての生徒が履修する。

②理数の「理数探究基礎」または「理数探究」の履修をもって「総合的な探究の時間」の履修の一部または全部に替えることができる。

・学校段階等間の接続として、中学校教育までの学習の成果が高等学校教育に円滑に接続され、高等学校教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力を確実に身に付けるように工夫する。

・大学や専門学校等における教育や社会的・職業的自立、生涯にわたる学習のために、卒業後の進路に求められる資質・能力を着実に育成することができるよう工夫する。

○第3款 教育課程の実施と学習評価

・「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善として、各教科・科目等において身に付けた知識及び技能の活用や、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させ、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科・科目等の特質に応じた「見方・考え方」が鍛えられていくことに留意する。

・生徒が各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図る。

・学習評価の実施にあたり、生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにする。また、各教科・科目等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにする。

・創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて生徒の学習の

成果が円滑に接続されるように工夫する。

○第4款 単位の修得及び卒業の認定 略

○第5款 生徒の発達の支援

・生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。

・障害のある生徒などへの指導、海外から帰国した生徒などの学校生活への適応、日本語の習得に困難のある生徒に対する日本語指導、不登校生徒への配慮など特別な配慮を必要とする生徒への指導内容等を工夫する。

○第6款 学校運営上の留意事項

・各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努める。学校評価については、教育課程の編成、実施、改善が教育活動や学校運営の中核となることを踏まえ、カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意する。

・教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意する。

・家庭や地域社会との連携及び協働を深め、地域における世代を越えた交流の機会を設ける。特別支援学校などとの連携や交流を図り、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育む。

○第7款 道徳教育に関する配慮事項

・道徳教育の推進を主に担当する「道徳教育推進教師」を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開。なお、道徳教育の全体計画の作成に当たっては、各教科・科目等との関係を明らかにし、公民科の「公共」及び「倫理」並びに特別活動が、人間としての在り方生き方に関する中核的な指導の場面であることに配慮する。

高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数

〔 現 行 制 度 〕

教科	科 目	標準単位数	必履修科目	
国語	国語総合	4	○ 2単位まで減可	
	国語表現	3		
	現代文 A	2		
	現代文 B	4		
	古典 A	2		
地理 歴史	世界史 A	2	丁 ○	
	世界史 B	4		
	日本史 A	2		
	日本史 B	4		
	地理 A	2		
公民	現代社会	2	「現代社会」又は「倫理」「政治・経済」	
	倫理	2		
	政治・経済	2		
	数学 I	3		○ 2単位まで減可
	数学 II	4		
数学 III	5			
数学 A	2			
数学 B	2			
理科	科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を含む 2 科目又は基礎を付した科目を 3 科目	
	物理基礎	2		
	物理	4		
	化学基礎	2		
	化学	4		
	生物基礎	2		
	生物	4		
	地学基礎	2		
	地学	4		
	理科課題研究	1		
保健 体育	体育	7～8	○	
	保健	2		
芸術	音楽 I	2	○	
	音楽 II	2		
	音楽 III	2		
	美術 I	2		
	美術 II	2		
	美術 III	2		
	工芸 I	2		
	工芸 II	2		
	工芸 III	2		
	書道 I	2		
	書道 II	2		
	書道 III	2		
	外国語	コミュニケーション英語基礎		2
コミュニケーション英語 I		3		
コミュニケーション英語 II		4		
コミュニケーション英語 III		4		
英語表現 I		2		
英語表現 II		4		
家庭	家庭基礎	2	丁 ○	
	家庭総合	4		
	生活デザイン	4		
	社会と情報 情報の科学	2		
情報	情報 I	2	丁 ○	
	情報 II	2		
理数	理数探究基礎	1	○ 2単位まで減可	
	理数探究	2～5		
総合的な学習の時間		3～6	○ 2単位まで減可	

〔 新 制 度 〕

教科	科 目	標準単位数	必履修科目
国語	現代の国語	2	○
	言語文化	2	
	論理国語	4	
	文学国語	4	
	国語表現 古典探究	4	
地理 歴史	地理総合	2	○
	地理探究	3	
	歴史総合	2	
	日本史探究	3	
	世界史探究	3	
公民	公共 倫理 政治・経済	2	○
	政治・経済	2	
数学	数学 I	3	○ 2単位まで減可
	数学 II	4	
	数学 III	3	
	数学 A	2	
	数学 B	2	
	数学 C	2	
	理科	科学と人間生活	
物理基礎		2	
物理		4	
化学基礎		2	
化学		4	
生物基礎		2	
生物		4	
地学基礎		2	
地学		4	
保健 体育		体育 保健	7～8
保健	2		
芸術	音楽 I	2	○
	音楽 II	2	
	音楽 III	2	
	美術 I	2	
	美術 II	2	
	美術 III	2	
	工芸 I	2	
	工芸 II	2	
	工芸 III	2	
	書道 I	2	
	書道 II	2	
	書道 III	2	
	外国語	英語コミュニケーション I	
英語コミュニケーション II		4	
英語コミュニケーション III		4	
論理・表現 I		2	
論理・表現 II		2	
論理・表現 III		2	
家庭	家庭基礎 家庭総合	2 4	丁 ○
	情報 I 情報 II	2 2	
理数	理数探究基礎	1	○ 2単位まで減可
	理数探究	2～5	
総合的な探究の時間		3～6	○ 2単位まで減可

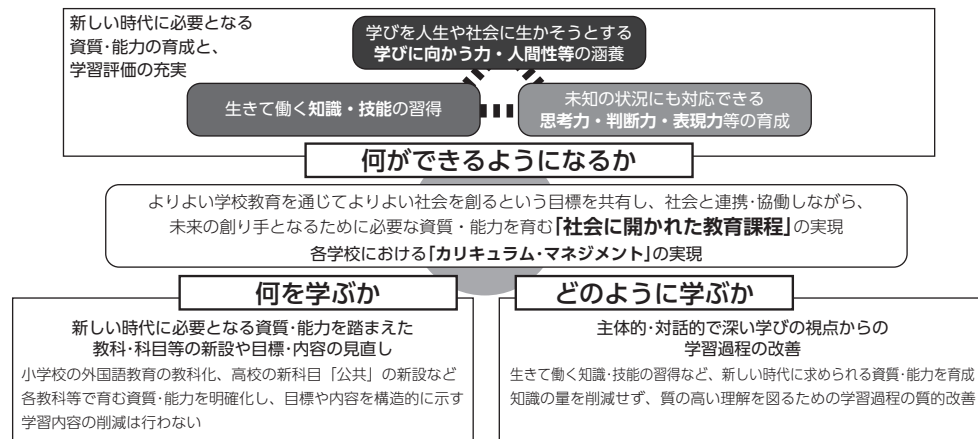


図 学習指導要領改訂の方向性 中央教育審議会の資料を元に編集部にて作成